

# 特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介

## 「未来を切り拓く子」を

## めざして

田原市立六連小学校

研究主任 大羽 佳洋

六連小学校は、田原市の東南端に位置しています。児童数は62名で、子どもも教師も全校児童のことを知っているよさがあります。

本校は、平成30年度から田原市教育委員会より3年間の研究委嘱を受け、研究主題を「未来を切り拓く力・態度の育成」「見方・考え方」を働かせるための六連スタイルの学習指導を通して」とし、社会科学と生活科に焦点を当てて研究に取り組んできました。

### 単元づくり

隣接の保育園、地域の商店や寺社・自主防災会・市役所・放送局などを取り上げ、地域の人とかかわる学習活動を中心に据えています。また、子どもたちが働かせる「見方・考え方」を、単元構想図へ1時間に1つ以上を位置付けて実践しています。さらに、「見方・考え方」の例をまとめた「見方の味方」シートを作成して、子どもの追

や保育園の子たちに発表する場を設けたり、追究してきたことや判断・意思決定したことを提案書、8コマ漫画などに表したりして、提案や発信をしています。

### 授業づくり

本校では、1時間の授業を、①本時の学習問題の確認と「出し合いたいむ」②ゆさぶる発問や資料提示と第二学習問題の設定③第二学習問題についての「話し合いたいむ」④意思決定を迫る「振り返りたいむ」の4段階の授業を通して、家庭や地域、社会へのかかわり方について判断し、自らの意思で決定していく姿を引き出すことに努めてきました。

### 研究の実践

第5学年社会科「情報を生かす産業」では、はじめに、昔と今のコンビニエンスストア（以下、コンビニ）の写真を提示すると、利用機会の増加から、コンビニの情報活用について問題意識をもちました。そこで追究するにあたり、「見方の味方」シートを活用して、学習計画を立てました。輸送・販売・サービスの工夫や努力・連携など、働かせる見方・考え方を明確にして追究を始めました。校区に唯一あるコンビニへ行った際に、本

部からの指示があることを知った子どもたちは、東京本社とオンラインで授業を行い、情報活用の場面や方法について聞いたり、質問したりしました。店舗や本社から調べ学習をしたところで、学習問題「コンビニはどのような情報を活用しているのかな」について「出し合いたいむ」をしました。そこで、保護者からのアンケートで、知っているけど活用していないという実態を取り上げてゆさぶり、第二学習問題「情報を活用することによって、本当に便利になっているのかな」を設定して、判断・決定を促す「話し合いたいむ」をしました。この授業をきっかけに、子どもたちは有用な情報をもっと知らせた方がよいと考え、学習発表会では保護者に発表しました。保護者とともにアプリで支払ったり商品を受け取ったりするなど便利なサービスを活用する姿も見られ、子どもたちにとって、校区に一つしかないコンビニをさらに有効に活用して自分たちの生活をよりよいものにしようとしています。

コロナ禍でさまざまな行動が制限されるとともに、自分ができることは何かを問われています。このようなときだからこそ、自分の手「未来を切り拓く力・態度」を養っていききたいと思っています。



資料を使って発言する様子